

## 平成27年第3回島田市教育委員会臨時会会議録(H P 用)

日 時	平成27年7月15日(水) 午前10時00分～午前11時40分
会 場	島田市金谷庁舎 第1会議室(2階)
出席者	牧野高彦委員長、五條早規子委員、高橋典子委員、北島正委員、濱田和彦教育長
欠席者	
傍聴人	10人
説明のための出席者	畑教育部長、服部学校教育課長
会期及び会議時間	平成27年7月15日(水) 午前10時00分から午前11時40分まで
会議録署名人	高橋委員、五條委員
付議事項	(1) 委員長の選挙について (2) 中学校教科用図書採択について
委員長	開 会 午前10時00分 それでは、定刻になりました。ただいまから第3回教育委員会臨時会を開催いたします。 きょうは大変傍聴の方も多くて、毎回このぐらいあるとやりがいがあると思うんですけども、よろしくお願ひします。 会期は、本日7月15日、一日といたします。 会議録署名人は高橋委員と五條委員、お願ひいたします。 それでは、今日は付議事項でございますが、議案の審議を行います。 選第1号、委員長の選挙についてを議題といたします。事務局から提案理由の説明をお願ひいたします。
教育部長	それでは、議案書の1ページをごらんいただきたいと思ひます。 選第1号、委員長の選挙につきましての案件について御説明をいたします。 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条第1項の規定に基づき、教育委員のうちから委員長を選出するものであります。 法第12条第2項の規定により、委員長の任期は1年ということになっておりますが、前委員長が今月14日で委員長の任期を満了されたことを受け、本日からの任期の委員長選出ということで御理解をいただきたいと思ひます。 なお、選挙の方法といたしましては、指名推選または投票による方法が考えられます。よろしくお願ひいたします。 以上でございます。

委員長	はい、ありがとうございました。 そうしますと、指名推選かあるいは投票かというようなことでございますが、どういうふうに取り計らうのがよろしいか、お諮りしたいと思いますが、御意見ございますでしょうか。
A委員	私は指名推選がよろしいのではないかと考えております。いかがでしょうか。
	（「異議なし」という者あり）
委員長	異議なしとの声がございましたので、御異議なしと認めます。 それでは、どなたか新委員長の御指名をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。
C委員	牧野委員にお願いしたいと私は考えておりますが、いかがでしょうか。
	（「異議なし」という者あり）
委員長	よろしゅうございますか。では異議なしということでございますので、牧野委員が新しく委員長に選任されました。 それでは、ただいま委員長に選任されました牧野委員に就任の御挨拶を、早速ですがお願いしたいと思います。
新委員長	座ったままで、済みません。 新委員長になりました牧野高彦といたします。一生懸命やりますので、よろしくお願いたします。
委員長	よろしくお願いたします。 それでは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条第4項の規定によりまして、あらかじめ委員長が委員長職務代理者を指名することになっておりますので、新委員長から職務代理者の指名をお願いいたします。
新委員長	五條委員にお願いをいたします。
委員長	はい、そういたしましたら、ここで進行を交代いたします。新たな委員長であります牧野委員長にお願いいたします。
新委員長	はい、わかりました。 それでは、進行を交代させていただきます。 続きまして、二つ目の付議事項に入ります。 それでは、議案第35号、中学校教科用図書の採択についてです。 学校教育課より説明をお願いいたします。
学校教育課長	平成28年から31年まで、中学校の教科用図書の採択について協議をお願いいたします。 お手元に、右上に参考と書かれている資料がございますが、そちらの2ページをごらんください。 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第4項、5項に基づき、志太地区教科用図書採択連絡協議会を設け、教科用図書の採択案を協議しましたので、島田市教育委員会に建議いたし

ます。

教科用図書選定に当たって、三つの視点で、検定を受けた、ここに並んでいます教科書を研究しました。

一つ目は、内容が現在の学習指導要領の内容をきちんと押さえた記述であるか。

組織、配列、分量が適当か。

生徒の発達段階に即したものであるか。

ということを検討しました。どの教科書も、文部科学省の検定に合格したものですので、学習指導要領にある内容を含んでいました。

志太地区教科用図書採択連絡協議会で採択した教科用図書の採択案を、今からお配りします。そして、なぜその教科書を選択したかについて御説明させていただきます。少しお待ちください。

それでは、国語から順次説明をさせていただきます。

国語科においては、5者ありましたが、その中から三省堂、こちらの教科書を採択案として出します。

国語科の学習指導要領は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域と、伝統的な言語文化と日本語の特質に関する事項からなっています。したがって、これらを視点に全体構成の面から調査研究を行いました。

お手元にある採択案の裏に資料がありますので、そちらもごらんいただきたいと思います。

三省堂を採択した理由を述べます。

1点目は、小学校との接続ということです。この1年生の導入に「オオカミの友だち」という教材があります。これは小学校でなじみのある本、絵本をほうふつさせます。

また、次に「ペンギンの防寒着」というのでは、小学校での学びを確認し、中学校教材で活用されるというような巧みな構成になっています。

2点目は、「学びの道しるべ」というところです。この「学びの道しるべ」には、「内容を整理しよう」、「考えを深めよう」、「学びをひろげよう」の3段階で読みの確実性と深化を図っています。その内容も工夫があり、竹取物語では最も悲しんだのは誰か考えよう、これを食べたときのオノマトペを考えよう、また3年生の「魯迅」、「故郷」では、副題を考えようなど、中学生の学習意欲に配慮したものが多く取り上げられています。

3点目は、「読み方を学ぼう」についてです。巻末にございます。3年間で17本を用意し、しかもそれぞれが見える化、単純化により、読み方を育てようという努力が見えます。この一覧は、学び方の系統性が学習者自身に自覚されるようになっています。教材を読むのが目的ではなくて、教材を通して読み方を育てよう、能力を育成しようとい

う意図が感じられ、思考力、判断力、表現力の育成に向けた配列になっています。

4点目は、共同の学びによる主体的学習という点です。短歌合評会、句会、ここにお示ししたのは討論ゲームのページですが、討論ゲーム、グループ新聞、ビブリオバトルなど、ゲーム感覚を取り入れた魅力的な協働の活動が提示され、生徒が話し合いや討論、交流を通して仲間とともに作り上げる、その過程での意欲的、能動的で活発な学習活動を意図しています。

以上、学習者の目線、学習者の立場でという視点が前面に出ている三省堂を採択するよう提案をいたします。

次に、書写です。

書写は、国語科の中の伝統的な言語文化と日本語の特質に関する事項の中に位置づけられており、目標としては楷書と行書、それに調和する仮名、身の回りの文字への関心、効果的に文字を書くが上げられています。これらを念頭に調査した結果、教育出版となりました。

その理由を今から説明させていただきます。

教育出版については、巻頭の「目的に合わせて書こう」が見通し、目的を持つのに大変効果的です。「楷書と行書の違い」は、具体的に「和」の文字を通して画の連続や省略を一目でわかりやすく示し、イメージしやすい工夫がなされています。

各文字は、学習者に寄り添い、学びのステップが丁寧で、不得手な生徒にとっても学びやすくなっています。

身の回りの文字文化という点については、「あの人が残した文字」など、日本の伝統文化の中で文字に対して興味がわくような工夫がなされています。

「文字は残る」では、芥川や賢治など、著名な人物の文字を写真で掲載し、興味がわくような工夫がなされています。

「新聞を書く」では、筆記用具の使い分けや文字の大きさなどが学べ、他教科での活用が期待できるところです。

ひらがな、カタカナにも丁寧に筆順をつけていて、小学校からのつながりが見えてきます。

「文字の変遷」では、中国とのつながりやさまざまな書体など、「書」に関する総合的な側面を持っていて、芸術科書道につながりが持てます。

「文字で伝えよう」のほうでは、手紙や仲間への励ましの寄せ書きなどが取り上げられ、文字の機能への注目点として重要な点だと考えます。

以上のように、学習者の目線、丁寧な解説で、この地区、志太地区で進める「正しく整えて書く」授業の推進、生徒の発達段階に合っていると考えます。

最後に、国語の教科書と書写の教科書、それぞれの内容と当地区の中学校の状況を考慮して選んだ結果、異なる出版社となりましたが、それについては現場としては問題がないと考えております。

次に、社会科です。社会科は、地理、歴史、公民、地図、四つあります。

まず、地理について御説明をします。

地理については、4者ございましたが、志太地区に最も適している教科書は教育出版ということで案をつくりました。

まず、この内容面なんですが、学習指導要領では「我が国の国土の認識と関連づけながら、世界に関する地理認識を深める必要」が強調され、そのため読図や作図などの地理的機能も大変重視されています。

この点で、この教育出版の教科書は地域の特色をあらわす地図、写真、データ等の資料が大判で大変見やすく、効果的に配置されています。こういったページからそれが言えます。

また、学習指導要領では日本の諸地域で地域の中核となる事象と他の事象を有機的に関連づけて地域の特色を動的に捉える学習を重視しています。教育出版では、この考察の視点を明確に示し、視点にあった資料を配列して学習を進めやすくしています。例えば、このようなページがここに該当します。

社会参画の視点を取り入れた主体的な調べ学習も、重視しています。見開き2ページに「学習課題」、ここですね、あと「ふりかえる」という項目があり、「地域から世界を考えよう」、あるいは「現代日本の課題を考えよう」を設けて、生徒の主体的な学習を促しています。

また、章末には学習のまとめと表現があります。このページになります。ここは、学習の内容の定着と表現活動の充実が図ることができるページだと思います。

最後に、生徒の実態や発達の段階への配慮の面についてです。

まず、配色やページ構成、掲載資料、文字の大きさ、行間、レイアウト等が見やすく読み取りやすく工夫されています。

用語解説や統計資料、索引も活用しやすく、地理的技能の育成や知識の習得に役立つと思われま。

小学校からの継続性にも十分配慮が見えます。例えば、最初のページなんですが、このように「地理にアプローチ」というところを設けたり、地理学習の導入において発達段階に応じて楽しく学習が進められるように工夫されています。

また、「中部地方の産業」においては、焼津をはじめ静岡県の産業が数多く取り扱われており、志太地区の生徒にとっては、とても身近でなじみの深い内容になっております。

以上が、地理教科書として教育出版を選定した理由となります。

次に、歴史に関することです。

8者の教科書がありましたが、歴史教科書は教育出版を判断しました。

一つ目は、内容についてです。まず、世界の歴史を背景にした「我が国の歴史の大きな流れ」の理解と、「歴史的事象を考察する説明する力」が重視されています。そのために、時代の区分や移り変わりを考え、自分の言葉で表現する活動を行う必要があります。この点で教育出版は視覚的に訴え、時代の変化を捉えさせる資料が章の始めに提示されています。こちらが第3章の扉になります。

伝統や文化の学習の充実への配慮も見られます。世界遺産、国宝などの、大きく見やすく豊富な資料があります。こちらのページです。

また、教育出版だけが扱っていますが、大井川の渡しなどの資料も、ここにその図がありますが、身近な資料も掲載されています。

二つ目は、組織、配列、分量の面からです。ポイントは学習指導要領で求めている近現代重視の視点です。国際社会で主体的に生きていく資質や能力育成のため、近現代学習の充実が求められ、その扱いに配慮している教科書が教育出版でした。総ページの約5割を近現代史に当て、特に現代史においては2020年の東京オリンピックまで取り上げています。世界史の扱いも、例えば市民革命などの記述もわかりやすく、理解しやすくなっております。

小学校からの連続性、あるいは生徒の実態に即した配列も見られます。第1章では小学校での学習を生かした資料の読み取り方を学ぶ活動が詳細に示されていて、スムーズに中学校の歴史学習に入ることができます。

何より、読み取りがしやすく親しみやすいのが教育出版と考えます。文字が大きく、字間や行間にゆとりがあり、写真なども大きく掲載されています。時代のキーとなる資料には、読み取りが丁寧にされています。例えば、この地券の図などがそれです。

また、古代の「木簡と計帳は語る」など、タイトル自体が生徒の関心を引き出しやすいように工夫されています。学習内容の振り返りでも、ステップ1の「基本事項の確認」、ステップ2の「事象の表現」というように、2段階の活動で生徒が見通しを持って学習し、進めることができる教科書と言えます。

今回の調査、研究から、志太地区の生徒及び指導者にとって大変活用しやすく効果的な教科書ということで判断させていただきました。

次に、公民です。

7者の教科書を検討した結果、教育出版を公民としても選択しました。

公民分野では、対立と合意、効率と公正な見方、考え方を生かして社会を捉えるための基礎を養い、社会に参画する資質、能力の育成を

図ります。内容面から見て、これらの求めに対応していると言えます。

例えば、最初の「私たちの暮らしと現代の社会」では、今日的課題である現代社会と防災を取り上げながら、これから何を学び、どのように生きていったらいいのかが示され、現代社会を捉える見方、考え方の基礎を意識できるように配慮されています。そのページです。

また、写真やグラフ、図、新聞記事などの資料も多面的・多角的に考察し、判断する力や社会参画の態度や能力に結びつくように工夫されています。

導入の「公民にアプローチ」では、新聞の特徴を生かしながら活用方法が丁寧に記載されており、多様な情報を適切に扱えるように意識されています。

組織、配列、分量の面から工夫が見られます。例えば、「公民の学習を始めるにあたって」において、公民的分野の全体を見通した流れを示し、学習を振り返るを設けて生徒みずから学習できるように工夫されています。

最後に、生徒の実態や発達段階の配慮の面からです。写真や図、グラフなどが大きく掲載されており、生徒にとって見やすく配慮されている点は、何よりも重要な視点だと考えます。また、生徒が小学校で使用していた教科書のキャラクターが、中学生になっても中学生になったという姿で登場するような工夫もあります。

さらに、県内の地域教材が多数掲載されている点も、生徒が社会を身近に感じることに役立ちます。御殿場市、あるいは浜松市が挙げられています。

今回の調査、研究から、教育出版の教科書が公民分野の目標を達成するために十分な配慮が見られ、社会の変化に対応し、重視されている法や金融の学習にも対応しており、志太地区の生徒及び指導者にとって最も効果的な教科書であると判断いたしました。

これまで報告してきたように、社会科は3種ともに教育出版の教科書を採択の案として出ささせていただきました。3分野とも同じ会社の教科書を使用することで、内容や組織、配列、発達段階への配慮に共通点がふえ、生徒が学習しやすく指導者の扱いも系統的で円滑になります。

各分野相互の関連も図りやすくなり、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うという社会科の目指す力を育てる可能性があると思います。

さらに、教育出版の教科書は小学校の社会でも使用されているということで、学びの連続に十分配慮されているのではないかと考えます。

次に、地図です。

地図については2者ありましたが、帝国書院を採択の案として出し

ます。

地図は、3年間、地理、歴史、公民のさまざまな学習で活用していきます。まず、志太地区の生徒が授業で使用する際に、読み取りやすく使いやすいものであることが何より重要な視点だと考えます。

では、読み取りやすさ、使いやすさという点で帝国書院の特徴は、濃淡を強調した色調にあります。地形の変化がはっきり読み取れる色調といえます。また、資料を同じ縮尺で統一したり、資料を読み取る手がかりを示したり、「地図を見る目」、「やってみよう」ということを示して地図を見る視点を明確にして読み取りをやすくしています。さらに、立体感のある詳細な鳥瞰図とイラストで関心を高め、地理的特徴を視覚的に捉えることができるように工夫されています。そのページをお示しします。こういったページですね。

世界地図の中には同縮尺の日本地図が掲載されているのも、帝国書院の特徴になっています。日本との位置関係、あるいは面積の違いが把握できるページとなっています。

生徒に主体的な課題追究ができるように、さまざまな配慮が見られます。まず、さまざまな事象を組み合わせて表現している地図や資料が大変豊富であるということです。生徒は社会的事象を比較関連づけます。

「日本の諸地域」では、地域の中核となる事象と他の事象を関連づけ、学習する際にも資料が中核となる事象に沿った配列、構成になっているため、生徒が大変見やすくなっております。

また、「日本との結びつき」に関連する資料も必ず掲載されていて、日本との関係を軸に世界や日本を大観できる構成もできています。

また、資料や図版は最新で、例えばシェールガス田の分布など、注目すべき事象の資料も既に掲載されているということです。「環境」、「防災」、「日本の災害と防災」の特設ページも、こちらの教科書には掲載されております。

最後に、3分野の関連や発達段階への配慮という点です。歴史や文化遺産との関連も踏まえ、志太地区の生徒が身近に感じて学習できるように、北海道や富士山の周辺の世界遺産の資料、中部地方の立体図などが使われています。

既に、志太地区の小学校社会では帝国書院の地図教科書が使用されています。地図の約束、使い方など、整合性、小学校との連続性にも対応していると考えております。

以上の理由で、帝国の地図を採択案として出させていただきました。

次に、数学に移ります。

数学については、7者の教科書について研究をいたしまして、生徒が興味関心を持って主体的に数学を学べる工夫があるほか、数学科に



における基礎基本の確実な定着、思考力、表現力、活用する能力の育成をバランスよく図ろうとしているか、これらの視点を照らしたときに、学校図書の教科書がふさわしいと考えました。

その理由を説明させていただきます。

まず、主体的に学ぶことができる教科書です。明確な目標と工夫された学習課題において、生徒が学習の見通しをもって数学的な活動に取り組める工夫がすぐれています。

学習課題、例題を解決していく中で、既習事項を振り返ることができるように、「ふりかえり」を、少し小さいですがここですね、「ふりかえり」を明示し、学年間のつながりを意識しながら主体的に学習を進めることができるよう、丁寧な配慮がされています。

このページは、1年生の文字式の累乗のあらわし方の学習のページですが、右端に「おしえて」というところがあるのですが、累乗で、 $a^1$  乗や  $a^0$  乗であらわすことはあるのかなというような生徒の疑問に関して、クローズアップでそのことを説明しています。

このように、学習の流れの中で自然に出てくる生徒の素朴な問い、疑問に答えるように工夫されていることが生徒に学習意欲を持って主体的に学ぶことができることにつなげていくことができるのではないかと考えます。

二つ目は、基礎基本、そして数学的な思考力と表現力、活用力をバランスよく身につけることができる教科書ということです。このページのように、「確かめよう」、「計算力を高めよう」というページを設け、その章における基礎基本の確実な定着を図るように問題を豊富に備えています。

また巻末には「まとめの問題」があり、基本、応用、活用の三つに分類し、生徒の習熟度に合わせて取り組めるような工夫がされています。

さらに、章末にはこのように「深めよう」というページがありまして、その章で学習した問題をさらに深めたり広げたりすることができるような工夫がされており、生徒の数学的な思考力、表現力、活用力を高めるような配慮がされております。

また、大きな特徴の一つであります巻頭のページです。ここには、「数学で使われる考え方」ということで、類推的な考え方、帰納的な考え方、演繹的な考え方を紹介しております。また、本文中においても、この数学的な考え方の場面がこれらのどの考え方につながるかをリンクさせるようなページがございます。

学校図書は、このようにどの生徒にとっても使いやすい教科書になっていると考え、数学科では学校図書の教科書が最もふさわしい教科書だと判断いたしました。

次に、理科です。

理科は、大日本図書の新版「理科の世界」を採択案として提案します。

まずは地域性に配慮した配列があるということ、次に、問題解決学習と体験的活動が深められる工夫がされているということです。

二つ目に、探求心の育成を考え、結果を別のページに記載するなど、生徒目線から紙面構成がされているということです。

1年生の力の学習を踏まえ、二つの力がつり合うとき、力の大きさや向きはどのような関係になっているかというように、具体的に力の向き、力の大きさに視点を合わせて提示されています。発達段階に応じた科学的思考を深めることを意図した構成だと考えます。また、実験や観察については、安全面への十分な配慮がされています。ここに、黄色の枠で描かれています。

また、探求過程が明示されています。実験観察のコツなど、科学的な体験活動を3年間かけて重ねていくという確かな支えも備わっています。

三つ目に、知識、技能の習得と発展性への工夫ということです。各単元の冒頭の見開きでは、既習事項の確認と本単元での学習内容が記載されています。ここが運動とエネルギーのページですが、このように、見通しが持ちやすい構成になっています。

また、単元末の「終章 学んだことを活かそう」では、知識、技能を活用させる場面が設けられ、身近な自然、生活との関わりを明らかにし、学びを活用する力を育てようという意図があり、生徒の発展的な学びへの扉が整えられています。

また、まとめにおいては、生徒が主体的に学習の振り返りができるよう読解力問題も備えるなど、活用力、応用力の育成が図られるような工夫がされています。

静岡県志太地区に関わる豊富な資料が載っております。1年生においては、富士山の火山弾、噴火による生活への影、静岡県東部地震、島田市の地震計の記録が載っています。ここがちょうど大井川鐵道があって、大井川の溪流になりますが。また、先ほども言ったように島田市の地震計についても載っています。

また2年生では、浜松科学館、浜松市動物園、下田海中水族館、日本平動物園など、なじみのある施設が掲載されています。

また3年生では、先ほど見せましたように大井川鐵道沿線の自然環境の保全が掲載されています。

平成28年3月に開館予定のふじのくに地球環境史ミュージアムも地球の歴史で、また登呂遺跡は住居とか技術で掲載されています。

総数17という群を抜く掲載で、志太地区の生徒の興味関心を引き立てるものが大いにあると考えています。

また、今日的な課題を取り上げています。東日本大震災を受けて、

津波や地震、災害などの防災、減災についても触れています。とりわけ、東北地方の太平洋沖地震、直後に発生した静岡県東部地震、2011年3月15日のデータ、このページがそのデータですが、その地震の揺れの伝わり方の学習はとともよくできています。島田市の地震計の記録も扱われています。このページが、ちょうど島田市の地震計の記録が載っているところです。このように、身近な地域教材が使われています。理科への興味関心、科学的探究心を喚起させるものと期待をしています。

また、世界的な規模で異常気象が発生している今日、静岡県は四季の変化の移ろいの中で豊かな県民性を育ててきています。三寒四温、冬から早春、春へと移ろう中、周期的な天気の変化は志太地区の生徒の豊かな感性を育む基礎となっています。揚子江気団を5社の中で唯一扱っているというところも特徴的です。

以上、理科については大日本図書を採択案とさせていただきます。次に、音楽科です。

音楽科の実態として、三つの点をまず確認をさせていただきます。

志太地区では、全ての中学校で生徒が演奏する場を設けており、その中でも合唱に占める割合が大変大きく、合唱のレベルは県内でもとても高いということ。

二つ目は、志太地区の中学校や生徒のさまざまな実態に合った適切な教科書であるということ。

そして3番目は、特別な支援が必要な生徒が増加傾向にあるので、インクルーシブ教育の普及とともに、そのような生徒が普通学級で授業を受ける機会がふえてきているため、教科書のユニバーサルデザインはとても重要であること。

これら3点を踏まえた上で、音楽においては2者の教科書を研究しました。そして、こちらにあります教育芸術社の教科書を採択案としました。

まず、合唱教材についてです。こちらが教育芸術社の目次なんですけれども、オリジナル曲である「夢の世界」をはじめ、「夏の日の贈り物」など、言葉の感性を細部まで生かした、しっとりとした曲調の合唱曲が並んでいます。「心通う合唱」の曲は、「蛍の光」以外全ての曲がもともと邦人の合唱曲で、「時の旅人」のような、かなり構成がしっかりした曲が並んでいます。

また、この志太地区の関係でいきますと、この教科書の1年生、静岡県民謡の「ちゃつきり節」が明記されています。ここにワークシートがございまして、この注目すべきポイントを、音の高さの変化と最初に明記しています。そして、最初の枠には、「お父さんと子供が呼んでいる部分で音の高さがどのように変化しているか調べて書きましょう」というふうであり、自ら気づくような工夫がされているとい

うこと、そして、どうしてそのような変化をしているのか理由を考えて書きましようとしてあり、根拠をもって言語活動に取り組み、小集団活動などでもできるように教科書が工夫されているということです。

ユニバーサルデザインということについて言いますと、「夏の思い出」というのがここに載っていますけれども、他社のものについては写真の上に歌詞が載っていたりするんですが、こちらのほうは大変地味な扱いなんですけれども、写真とイメージする歌詞は分離されて、落ち着いた感じがします。同社においては、教科書全体がそういう形で統一をされており、とても見やすくなっているところです。

また、器楽においては、今、中学校の多くが和楽器が必修になっているということもありまして、和楽器の、琴を中心に授業をやっていると聞いていますが、その演奏の仕方が大変きっちり載っていますし、基礎的な奏法が身につくような構成になっているという点が特徴的です。

以上の理由で、音楽の場合は器楽と音楽というのがありますが、どちらも教育芸術社を採択案として提案させていただきます。

次に、美術です。

美術は3者ありました。3者とも想像することの楽しさを感じるとともに、思考、判断、表現するなどの力を身につけることができるような配置になっていること、生活の中での造形、美術の働きや美術文化に関して関心を持ちながら心豊かに生きることの大切さを重視したものとなっています。

志太地区の中学生が使用する教科書として研究した結果、日本文教出版の教科書を採択案とさせていただきます。

その根拠について、説明をさせていただきます。

中学校の発達段階に対応した、3冊分、1年生が「出会いと広がり」、2年生の上が「学びの深まり」、そして3年生が「美の探求」というような形で、テーマ自体が社会とのつながりとか広がりを持っていることになっているということです。

また、2番目としましては、生徒が「人・もの・こと」との対話を通して力をつけていくという過程を通した授業づくりに適しているということです。こちらは、「私との対話」というところです。題材の目標の文言の書き方に子供の思考力を狭めない配慮があるということ、全体的に生徒の思考、判断、表現を狭めることのないような表記になっているというところがあると考えます。

三つ目は、志太の中学生にあった鑑賞題材の充実ということです。こちらにあるのが、富嶽三十六景、こういうふうなページ構成になりますが、これは北斎の富嶽三十六景であります。実寸大ということで、あと紙の質も、随分いい紙の質で、このページだけ扱われています。

また、2年、3年の下なんですけれども、ここには三十三間堂の写

真がこのような形、観音開きになっています。なかなか、こういう視点で見ることもないわけですが、中学生は修学旅行で京都に行きますので、そういった意味で関連づけがされているページと言えます。

以上の理由で、美術については日本文教出版を採択案とさせていただきます。

あと4教科です。

次に、保健体育です。

保健体育は4者ありました。その中から、東京書籍の「新しい保健体育」がふさわしいと考えます。

教科の主たる教材としての内容を具備しているか、あるいは内容が学習指導要領の教科の目標を達成させるために適切であるかという点については、最初のほうに「やってみよう」という投げかけによって、生徒が学習課題をつかんで問題解決への学習を主体的に進めることができます。

また、ここでの活動は、話し合ったり記述させたりする活動を取り上げていることから、言語活動の充実にもつながっているとと言えます。

応急手当、心肺蘇生法にかかわる内容は、6ページにわたって掲載されています。こちらのページです。災害安全の視点から、学習指導要領の内容にも合致しており、生徒が主体的に判断し、二次災害を防ぐため適切に判断したり行動したりする力を養うという今日的な課題に沿う内容であるということが考えられます。

二つ目の、内容、組織、配列、分量についてです。学年ごと、保健編、体育編をまとめた構成になっており、知識の定着や意欲、興味に個人差が大きい中学生の生徒に配慮した内容を取り入れていると考えます。

1時間を「やってみよう」、「学習内容」、「考えてみよう」、「生かそう」の学習の流れを見開きの形で構成しています。この一連の学習で、生徒は基礎基本の学習内容の定着に加え、「生かそう」の内容によって学んだことを発展させるなど、応用力、あるいは実践力を高めていくことができると考えます。

こちらのサイズは、普通のサイズより少し大きめのサイズとなっております。A4版の紙面で文字の大きさ、行間の広さ、適切な余白、イラストと写真のバランスなど、あるいは吹き出しがあったりとかユニバーサルデザインを意識されていて、とても見やすさがあるのではないかと考えています。

また、章ごとに「確認の問題」、「学習のまとめ」があり、それぞれの問題の質、量など、内容も充実しています。生徒自身が学習を振り返ったり、自己評価したりすることにつながるのではないかとこ

とです。

次に、生徒の発達段階とのかかわりです。東海沖地震という喫緊の課題を抱える志太地区の生徒にとっては、防災に関する学習はもちろん、その上で「共に生きる」という発展的に扱い、災害後の心のケア、地域のきずな等、生徒にとって身近で大切な内容を取り上げています。それがこのページでございます。

また、知識の定着や意欲、興味に個人差が大きい中学生期の生徒に配慮したクール、コール、キャラクターがありますけれども、そのキャラクターによるわかりやすい言葉が課題解決に結びつく視点、ヒントを示し、学習をリードしているため、どの生徒にとっても学習しやすいものになっていると考えます。これが、先ほど言いましたキャラクターです。

以上の理由で、保健体育については東京書籍を採択案とさせていただきます。

次に、技術・家庭科に移ります。

技術については、3者の教科書がありました。そして、検討した結果、開隆堂の教科書を志太の採択案とさせていただきます。

4点の観点から、その理由を述べます。

一つ目、実践的な学習を支える内容の構成と、実習題材の充実が図られています。こちらのページは加工法のページです。作業工程ごとに道具の使い方、幾つかの加工方法の紹介など、作業工程がよく理解でき、段取りよく安全に作業ができるように工夫されています。

実習例については、製作図、完成品の写真、素材の選択など、取り上げられている内容が充実しています。作業内容を考えながら部品表、材料取り図、工程表を完成させていく中で、生徒一人一人が作業の見通しを確認する際にとっても役立つページになっていると考えます。

次に、意欲的に学習を進める、問題解決的な学習の充実があるということです。内容、項目ごとに学習の目標が明示されています。例えば、こちらのページでは、上段に学習の目標が掲げられています。また、「考えてみよう」に自動車のワイパーが動く仕組みについて取り上げられています。課題の解決の手だてとなるリンク機構の仕組みについて詳しく取り上げられています。生徒の主体的な思考を支援するとともに、理解を深める手だてとなる配列がなされています。

三つ目に、持続可能な社会の構築、勤労観、職業観の育成と、技術を適切に評価、活用できる能力の充実にかかわる点です。現代社会においては、喫緊の課題である持続可能な社会の構築について、たくさんのページを割いています。そのうちの一つを見てみます。こちらのページです。こちらのページについては、技術と循環型社会、環境について触れてあるページです。

こちらは、学習を振り返りながらその定着、実生活との結びつきについて、生徒が考えやすい構成をとっているページです。

4点目は、興味・関心を高め、発展的な資料や教材の提示という点です。こちらのページは、参考という補助資料が随所に取り上げられ、学んでいることが身近な技術として応用され、自分たちの世界をより快適に便利なものになっているということに気づかせる構成になっています。

以上、よさがあるということで、技術については開隆堂を採択案とさせていただきます。

次に、家庭科についてです。

家庭科も同じく3者から研究をしました。その中で、開隆堂がすぐれているということで、今から2点について理由を述べさせていただきます。

一つ目は、生徒の主体性を生かした問題解決的な学習内容になっているということです。各学習項目において、生徒が学習の見通しを持ち、問題意識を持って自分の力で学ぶ学習形態を意図的に組んだ内容があるということです。

小題材ごとに学習の目標を明確にし、生徒の生活場面に即した導入における課題であり、調べる、考える、話し合う、実践、振り返るなど、興味・関心を持って主体的に学習できる構成となっています。

学習をわかりやすく支援するような効果的なマークやインパクトのある写真により視覚的な工夫がなされ、より理解しやすいものとなっています。例えば、この食材の写真を、これは実物大で示してあり、実体験の少ない生徒にはとてもわかりやすい構成ではないかと思えます。

課題学習の進め方や生活の課題と、実践の例を豊富に掲載し、生徒が主体的に取り組めるようになっていきます。これがそうです。

次に、各地域や環境、生徒の実態に即した発展的な内容が含まれていることです。基礎的・基本的な知識・技能を習得し、生かし、応用したり広げたりする参考資料が豊富に載っています。

具体的には、課題、ここは探求というページですけれども、この項目に自分の力で学習内容を広げていけるような工夫がなされています。

ガイダンスを通して、つながりのある系統的な家庭科の構成がされています。先ほど技術でも言いましたように、持続可能な社会の構築や共生社会を目指すというページもあります。人と支える優しい社会を目指す共生社会の中で、精神的な自立・生活の自立・経済の自立の三つの視点から、自分の考えを持ち、プロセスを大切に、教科としての知識、技能を育成することを重点としているページもございます。

また、食生活の環境という形でのページもございます。持続可能な

社会に向かったのページが各領域ごとに置かれているというところも特徴として挙げられます。

以上の理由で、技術・家庭科については開隆堂を採択案とさせていただきます。

次に、英語です。

英語は6者の教科書がございました。その中で、学校図書の「TOTAL ENGLISH」を採択案とさせていただきます。

以下、説明をさせていただきます。

一つ目は、見通しを持って学習できるようにチャプターというのが構成されているということです。幾つかのレッスンはチャプターとしてまとめられていて、それを、ここにあるような場面のように、各チャプターの扉では生徒の興味関心を高め、なおかつ学ぶ項目と学習到達目標が明示されており、生徒が見通しを持って学習できるように配置されています。

このページでは、自己紹介のスピーチができるようになることが目標として示されています。また、「Chapter Project」では、あいさつについて4技能をバランスよく習得できるようスモールステップが設定されており、無理なく目標に近づくことができるような工夫がされています。

二つ目は、小学校の接続、学年間のつながりが大切にされている構成がされているということです。このページですが、各学年の初めには「Pre-lesson」が配置されており、前学年の学習を振り返りながらスムーズに新学年の学習に移行できるような構成になっています。特に、1年生の当初においてはリスニングの活動が4ページにわたって組まれており、小学校外国語活動でよく用いてきた表現を聞くことで、これからの英語学習への抵抗をなくし、意欲に結びつけることができます。

2年、3年の「Pre-lesson」についても、前年度までの学習を総合的に振り替えることができる内容になっています。

また、1年のLesson1では、一般動詞のlikeから始まる配列になっています。外国語活動の際、小学校では一般動詞を多く使ってきていますので、自然な形で中学校の学習をスタートできるような構成になっていることも特徴的です。

また、さらに、つづりと発音のつながりを意識した活動が1年のはじめに多く配列されていることも、英語を書く活動や意欲へ結びつけるものと考えられます。

三つ目は、身近な題材が取り上げられているということです。生徒にとって、自分たちの生活と密接に関係する題材が各学年で取り上げられています。3年生のLesson1は、「Report for Our School Trip」は、修学旅行が取り上げられてい



ます。実際に修学旅行に行く時期である5月に学習することから、興味・関心が高まる題材といえます。

3年生のLesson2「Junior High School Club Life」は、部活動の大会に向けて練習に取り組んでいる姿と重ね合わせて本文を進めていくことができます。特に、2C「Miku's Diary」では、練習の思い出とともに、友達の大切さや今後の中学生活に向けての決意に大いに共感すると思われれます。

また、2年生のLesson5では、自分たちが行った職業体験と比べながら興味を持って進めていくページもごございます。1年生では、Lesson7で「New Year」が取り上げられており、おせち料理や書き初めなど、日本の伝統文化の良さを味わうページがあります。

このように、学校図書の「TOTAL ENGLISH」については生徒の実態に合ったものと判断し、採択案とさせていただきます。

長時間にわたって説明させていただいて、ときどき教科書をお示ししながらの説明でわかりにくかったところもあるかもしれませんが、今、お手元にあります別紙のものを採択案ということで、先ほどその理由について説明をさせていただきましたので、御検討をよろしくお願いします。

以上で説明を終わらせてもらいます。

新委員長

はい、ありがとうございました。

ただいま、中学校教科用図書の採択について説明がありました。

委員も事前に教科書を見させてもらってあります。いかがでしょうか。御意見ありましたらお願いいたします。

B委員

膨大な数でありますので、ほかのものまで含めて全部見ることはできませんでしたが、とりあえず採択されたものを中心に、それでも相当な量がありまして、きのう、3時間ぐらいかけてざっと見せていただいたんです。

隅々まで細かく見る時間はとてもないんですが、採択をされた理由というのは、今も詳しくお話いただきましたので、そういう観点でということでありましたら、特に問題ないであろうということではありますが、実際に手にとって見ますと、何か少し違和感を感じるようなところがないでもないというのが何箇所かございまして、気がついた範囲で3点ほど私のほうから、これはどうかなと思うところを申し上げたいと思います。

まず、理科の3年生の教科書ですね。生物学で、93ページだったと思いましたが、そこですね。その右側のページ。

左のところまでは植物学の関係だったんですが、そこから右のほうは動物の、いきなり今度はヒトということで、ヒトの生殖というところが始まったわけです。

全体に、非常にほかの会社のもみんなそうだと思うんですが、非常に絵が豊富でして、多すぎるぐらいに、疲れるぐらいにあるわけなんです。これがいいかどうかは別として、もうみんなこれは同じでありますので、とりあえずそれは別としまして。

そうすると、逆に気になるところは文字です。文章のところがやはり、一番最初のところにまず基本的なことがきちんと論理的に書いてあるかというところを僕は、ところどころ見たんです。そのうちの一つなんですが、そこに基本的なことが書いてありますが、精子と卵が、何というんですかね。ヒトもほかの生物と同じように細胞分裂をくり返して成長するというところですね。生殖細胞もそうなんですが、父親の精巣では精子が、母親の卵巣では卵が減数分裂によってつくられると。精子が母体内に放出されて卵と出会い、受精する。そして、受精卵が胚となり発生をする。その途中でヒトとして欠かせない神経、血球、云々と、こうなっていくわけです。

ここの辺りは非常に基本的なところが必要最小限にしてうまく書かれていて、最後は胚は次第に赤ちゃんの形になっていくというところで終わっている、わずか10行程度の文章なんですけれども、これはうまく書かれているなと思ったんですが、少しどこか、何か引っかかる場所があって、もう1回じっくり見ますと、精子ができる場所、精巣なんですが、誰の精巣かという父親の精巣と書いてあるんです。卵は母親の卵巣と書いてあるんです。いったい誰の父親、母親なのでしょう。これは、父親とは何か、母親とは何かという言葉の定義をしていません。ですが、多分公民あたりでは別の定義がされているかなと思います。これは確認していませんけれども。

でも、ここではそういう意味ではないんです。つまり、父親、母親というのは生殖がうまくいった後の話でありまして、それまでは父親、母親は関係ないんですね。雄と雌、つまりヒトの場合ですと男と女という、そういう表現。男性、女性という表現であればオーケーかもしれませんが、生物学的な男性と生物学的には女性ということ以外に、別の要素を加えてあるんです。父親、母親というのは。

そういうことで、ここはサイエンスとしての生物学の基本を教えようというところで、別の要素をこうやって含ませるとするのはとても将来危ないんじゃないかなと思いました。

いろいろな意味の父親、母親があります。実際には生物学的とは関係のない父親、母親もあり得ます。だけど、そういうことではないですし、時間を考えてみても、生殖がうまくいった後初めて、誰の父親かというとその胚の父親であり、その胚の母親でありまして。

そういう意味では、最初に卵が存在している持ち主が既に母親かという、そうではありません。だから、精子がたくさん何億とあります、その精子が精巣にある、その持ち主は父親かという、その時点

ではまだ父親ではありません。という意味で、生物学的な厳密性をこれは欠いている表現だなと思いました。

これは1点です。

それから、音楽です。中学2年、3年の上という、上下ありましたが、上という教科書の中に私の好きな歌が実はありました。「夏は来ぬ」。

これは、「卯の花の匂う垣根に」という、こういう、皆さん御存知のいい歌なんです、僕は子供のときにこういうのを歌ったり読んだりした覚えがあるんですが、久しぶりにこれを目にしました。

実は、これは誰の作曲だったかな、作詞だったのかなというのを、全然知らなかったんですけども、これはこれを見て、ああそうだ、佐佐木信綱だったんだということがわかりました。

佐佐木信綱というのは、明治生まれの方で、大正の時代に非常に活躍された人で、歌人ですね。その時代のトップランナーの歌人だったと思いますし、それから国文学者であって万葉集を、万葉集って、あったというのは知っていますが、万葉集ってないんですよ、本物は。本物はないんです。

みんな散り散りにばらばらになっていて、断片的にいろいろなものがあるんだけど、それを現代人にわかりやすくするために万葉集を研究して集めて、一つの体系立ててつくり上げた人が佐佐木信綱なんですね。大変な人なんです、その人の作詞だった。

1番は知っていますけれども、5番まであるということ、僕も久しぶりにこれを見て気がつきました。

3番目のところを見たときに、何か少し違和感を感じたので、このところ。「橘の薫る軒場の窓近く 蛍飛びかいおこたり諫むる夏は来ぬ」と、こうなっているんです。

「橘の香る軒場の窓」ですから、窓を見ると、こういう建物には軒がありませんけれども、普通、昔の家には必ず軒が見えるわけです。ぱっと窓に目を移すと、軒端が見える。それは軒の端っこという字を書きますが、ここで違和感だなと思ったのは、場所の場なんです。これは明らかにおかしいんじゃないかなと思ったんですが、後で辞書を見てみたら、この場所の軒場というのは出てきません。必ず端という軒端。これは何かの間違いかなと思いました。そういう有名な歌人ですから言葉の感覚はとてつとすぐれているだろうと思うし、こういうのがあったのか、あるいはひよっとしたら、万葉の研究者ですから、ひよっとしたらもとはひらがなであったかなとも思ったり、いろいろしたんですけども、確信がないんですけども、このところはやはり少し違和感を感じざるを得ない。意味がわからないですね。この「場」では。ひとつ、ぜひ調べていただきたい。

この歌詞は、おもしろいんです。これは僕は、佐佐木信綱であるこ

とをそのときにたまたま知って納得がいったんですけれども、この歌、1番だけ見ますと、余分なことになりますけれども、時間はありますからいいでしょうか。

「卯の花の匂う垣根に時鳥 早も来鳴きて忍音もらす」。これが、ここまでは短歌そのものです。和歌そのものなんですね。最後に夏は来ぬということをつくつたんです。これは全部、1番から5番まで全部そういう形式になっていまして、全部最後は夏は来ぬという5文字が入っているんですけれども、これをカットすると全部五七五七七です。ああそうかと思って、さすがに佐佐木信綱だったんだなと思うって、感心したんです。

でも、別のところでたまたま知ったんですけれども、こういうのがあるんです。古今集なんですけれども、「卯の花の さける垣根の月清み いねずきけとや鳴く郭公」と、こういうのがあるんですよ、古今和歌集に。

卯の花、それから垣根ですね。それからホトトギスが鳴くという、このキーワードを全部ちりばめてあるという、これは1番は同じです。何という、これはやはり古典の研究者だなと思って、きっとこの夏は来ぬの歌詞は、佐佐木信綱さんは「卯の花のさける垣根の月」、当然知っていたんだろうと思うんですね。これを下敷きにして、この、俳句ではないので季語とは言いませんが、季節に合った言葉をうまくキーワードを取り込んで、ほとんど内容は同じなんですね、そういうのを。

そして、最後に夏は来ぬだけくっつけて、立派な歌詞にしたんだなということが、推察にすぎませんが思いましたけれども、非常におもしろい歌でした。

そういう意味で、これは中学生は国語で短歌をしっかりとやりますよね。そこのところで、その五七五七七って、本当は短歌は歌なんですよ。昔の、万葉集でもそうですけれども、耳で聞いて、実際に朗詠をして、そして伝えていってそれを感じた。国語では、今はそれをしていないと思います。

だけど本当は、音楽と国語というのはとても関連があって、昔はいっしょにただったんですね。これは、明治以降はこういう、今の教育制度になってから分けざるを得なくなった事情があるんだろうと思うんですけれども、ここのところはやはり、そういう意味では大事なところであって、佐佐木信綱のこの「夏は来ぬ」というのは、そういう意味で関連づけて話をしていただくと本当にいい教材だなと思いました。

ただ、その言葉、「軒場」だけ気になりましたので、もしわかれば調査していただければと思います。

もう一つ、これも大事なところです。英語の3年生なんですけれど

も、20ページ、さっきは、あれは2年生でしたかね。日本文化のこの、これも日本文化のことを英語で説明しようということだと思いません。3年生にもそういうところが出てまいりまして、日本の伝統文化を英語で紹介しようと、こういうことなんですね。

そのことは実際に、外国人と接したり外国へ出たりしますと、必然性がありますので、これはとてもよいことだなと思いましたが、ぱらぱらと見てぱっと気がついたところが、変なところが一つありました。

絵があります。こういう絵が多いというのはさっきも言いました、絵が多すぎると何かうるさい感じがするんですけども、絵も確かにいいんですが、へたに使うと、ぱっと見たときに何だか変だなというのがすぐわかってしまう、ぼろが出てしまうというんですね。

この、男と思いますか、女と思いますか。これは浴衣だというんですよ。男にしか見えないんです。男の姿です。帯の位置からしても、柄からしても。ですが、その下におはしりがあるんです。おはしりの線が。これは変なんですよ。

右側のページには、いかにも女の子らしい絵があります。浴衣です。着物は、女の人のおはしりがあります。でも伝統的に言うと、本当はおはしりは浴衣はないんです。男も女もなかったんだそうです。でも今は、女の子の浴衣もおはしりをやっぱりするように変わってきたようです。でも、男は昔も今もおはしりはしません。対丈でつくるといのが当たり前です。浴衣だけじゃありません。男の着物は全部それが基本であります。

こんなところにこういうおはしりの線が入るといのは、とてもおかしい話。これは男かな、女かなと思ったんですが、どう見ても、ヘアスタイル、全体の感じから見て男の姿ですね。こういうものはやはり大事にしないといけないので、これを知らないうちに目で見てしまっていると、後になってそれに違和感を感じないような感性を育ててしまうと思うんですね。

前回の時には、御飯を食べるときのお膳が、あれも別にあんな写真を載せなくてもよかったんですけども、大きく出ていました。左側に吸い物椀があつて右に御飯のお椀がありました。これは逆じゃないかと。ぱっと見ておかしいなと思うんですが、今回、そういうことがあったものですから、今回はほかの職業課程の、家庭科のあれを見ましたけれども、全部正しくなって載っていました。それは大事なことなんですよ。

そういうところをやはり大事にしないとと思いますので、これはむしろ訂正を求めたいなと私は思ったんですけども。

御指摘ありがとうございました。たいへん細かく見ていただいて、ありがたく思います。

学校教育課長

B委員  
新委員長  
A委員

今の3点については、早速教科書会社のほうに意見ということで問い合わせをさせていただきたいと思います。

昨年と同じような形でさせていただきましたので、早速対応させていただきます。御指摘ありがとうございます。

よろしくをお願いします。

ほかに、いかがでしょうか。

たくさんの書籍を見せていただきまして、ありがとうございます。

英語の本だったんですけども、大変わかりやすい題材が使ってあったりして大変よかったです。一番最後のページに、簡単な辞書機能ですかね、単語集が載っていたのが、私たちのころと比べるとそういうのはなかったもので、これは大変便利なものだと思います。逆に、教育長にお話を伺いましたら、どうしても辞書を引く機会が減るということがあるということを知って、なるほどと思いました。電子辞書などは子供たちも持っているとは思いますが、めくったどこの場所にあったという記憶が残るということ、英語の先生から教わったことがあります。

辞書を使うということ、現場の先生方には心の中にひとつとめておいていただくと、いい教材でいい授業に臨めるかなというふうに感じました。

それともう一つ、国語の教科書ですが、大変いい物語だったなど事前に読んだときに思いました。教材を、深く勉強すれば大変いい教科書かなというふうに思ったので、これもぜひ現場の先生方の力量を発揮していただければいいなというふうに感じました。感想です。

ありがとうございます。

新委員長  
C委員

今、A委員のほうから英語のことで出ましたので、私も、同じように辞書のところは親切だなという感想を持ちました。

ほかの教科もそうなんです、今、学校教育課長の説明の中で一人一人の子供たちのことを考えて選択、教科書もつくってあるなということ、を思います。

ただ、丁寧過ぎてしまう感じがするというのがどの教科書にもあって、それはやはり授業で教科書を教えるのではなくて、教科書を使って授業をしていくという先生方の考えで授業というのは展開されるので、そこはもう、学習に余り興味のない子に対しても、それから意欲があつてどんどん進んでいく子に対しても、工夫された授業がこの教科書等を使ってなされていくんだろうなと期待をしています。

英語の辞書のことと、もう一つは、1年生の、先ほど教科書の説明があつたときに、小学校からのつながりというのがありました。小学校では聞く、話すという力をつけていって、中学では読むとか書くというのも入っていくよという、そういう、小学校よりは程度が変わっ

ていくよということがよくわかるスタートの教科書だったなど、見せていただいて思いました。

あと、美術で、先ほど両見開きの絵を見せていただいたんですが、私も昨日見ている、あの三十三間堂の写真にはほうっとこう、長い時間見入ってしまったんですが、そのときに、自分が中学のときに修学旅行で三十三間堂の中に自分に似た顔があるから探してみてくださいというようなガイドさんのお話を思い出して、ずっと見入ってしまったんですが、日本文教出版ですか、鑑賞教材がとても充実しているなということは私も感じました。ありがとうございました。

B 委員

きょうのこの資料、7 ページのところにある、音楽の赤とんぼ、1 年生の24 ページの赤とんぼのページのことがここに書いてあって、これはレイアウトというかデザインの。

学校教育課長

ああ、そうです。

B 委員

ええ。赤を基調としたというような、赤とんぼだから赤というふう

学校教育課長

では、他社のを見てみます。

B 委員

ほかのものでも、赤とんぼはやはり載ってましたですかね。

学校教育課長

そうですね、こちらが採択案です。

B 委員

ああ、それですね。

学校教育課長

こちらがもう一つのもので、要するに、写真の上に重ねて歌詞が載っているか、一応載っていますけれども、黒ということで。あと、色使いとかも見ていただくと同じ教材でもこっちのほうがいいと。

B 委員

私は、実は、これはいいなと思って感心したのはそういうところではなくて、採択されたほうには作詞者の思いというようなものが非常にうまく書いてあったんですね。こっちにもありましたかね、それは。

学校教育課長

一応ありますが、寄稿からと書いてあります。はい。そうあります。

B 委員

そうしたら、もとは同じなので両方とも同じ趣旨のが載っているのであればいいんですけども。

これはとても、昔はなかったと思います。これはすごくいい内容の、思いみたいところが書いてありまして、赤とんぼというのは、トンボを歌った歌かというのと全然違うんですね。あれは何なのかというと、難しいところなんですけれども、人のぬくもりですね。人って誰かという、「姐や」なんです。姐や。

自分は赤ちゃんですからほとんど覚えていない。だけど、そのときの子供の、お腹がすいたとかおしっこをしたりとか、そんな感覚は赤ちゃんでもあるわけです。

もう一つは他者との関わりの原点、人の肌に接するぬくもりというのが記憶のなかにあるわけですね。姐やは嫁に行って結局もうそこからどうなったかはわからないわけなんですけど、だけれども、まだ十幾つぐらいの子が子守できて、その姐やにいつも背負われていた

この風景、これを懐かしく思う感覚が皮膚感覚が残っているという、そういう心の歌なんですね。そういうのが、そこの解説のところから初めて読み取れる。

だから、これはよい心を育てる歌です。曲だけを提示してもよくわからない、何の歌だかよくわからない。赤とんぼが飛んでいるなという、田舎らしくて秋らしくてそれがいいなという、そういう知識の歌ではなくて、感性の歌なんですね。その感性は何かというと、赤い色でもなくて人のぬくもりなんですね。これが大事なところだと思うんです。それがきちんと書いてありまして、感心しました。

それから、これもどうでもいい話なんですけれども、よく、国語のところでもありました、小学校から中学校への連続性といいますか、そういうようなことがあると好ましいのかなというふうに、やはりそれは、先生方はそういうところがあるかもしれないし、子供の立場ではそうなのかもしれないけど、それはどちらかというと、ひよっとしたら甘やかに過ぎないのかなという感じがするんです。

つまり、例えば同じオオカミとさっきのクマ、ああいうものが、ベースになる何かがあった。そして中学校のところでもその発展形の何かにつながるような話が出ている。誰でも飛びつきますよね。これは、はっきり言うと出版社のあざとい戦略だと僕は思います。

そこについ引っかかってしまったという反面が、ないことはないんですよ。だって、当然そうするんじゃないでしょうか、自分が出版社だったら。やりやすい、何となくなじみがあって。

だけど、それは逆を考えますと、小学校から、今の小学生だったら、ここで、中学になったらこうしてやろう、まるっきり新しい社会が、世界がある、開けているかもしれないと思って期待している子供に、ああ、何だまたこれかという、何か既視感みたいなものを。

よい思い出のいっぱいある子はいいいんですけれども、そうでない子は、何だまたこれかと。よかった子は、ああ、よしこれかと。この違いはやはりきっとあると思うんです。それはリセットできない。

こういうところで、だって、中学から高校に行ったときに、僕の体験でもそうです。物すごいショックでした。連続性など何にもないです、それは。全然違う。次元が違うぐらい変わります。そういうことの一つのステップを、ここに少しだけ入れてもいいんじゃないかと。

でも、そんな大きく変わるわけはありませんから、余りそのことにとらわれなくて、変わったら変わったでそんなもんだというふうに教えることがむしろ大事なかなと私は思うんですけれども、それはどちらでもいいんです。多分いろいろな意見があると思いますので。そういう感覚もあるということを一応承知していただければと思います。

将来の課題かもしれません。

これは、この教科書がということではなくて、一般的な教科書を見



新委員長  
学校教育課長  
新委員長  
学校教育課長  
新委員長

ていて、すごく丁寧なつくりをしてあるなということは、A委員とかC委員が言ったとおりです。英語の巻末の辞書機能というんですか、単語集を載せてあるということの一つの例として挙げられましたが、そのとおりだと思います。

ただ、B委員が言ったように、リセットする機会というのは、この教科の内容だけでなく、例えば中学校へ行ったときに教科担任制とかさまざまなものがあってリセットされるものですから、それほど心配はないかなということは思いますが、さまざまな子供たちがいる中で、そのさまざまな子供たちへの配慮したつくりというのは各々の教科書がどれもされていると思いますが、余りにも丁寧過ぎることについては私も若干違和感を持っています。

私が校長のときにも、夏休みの宿題、英語の宿題は辞書を使わなければ解けないような問題、課題を出してくださいよということをお願いしました。

そういうことによって、授業または課題の出し方によってこの教科書で足りない部分というのは補える、そういうようなことをまた学校教育課長のほうから、どの教科書を使っても同じことなんですが、御指導していただければ島田市の子供たちの学力というのはきちんとついてくるのではないかなということだと思います。

これは、どの教科書を使っても同じことが言えるということで、つけ加えをさせていただきたいなと思います。

以上です。

はい、ありがとうございます。

ありがとうございます。

私から、いいですか。

はい。

2点ほど。

教科書のユニバーサル化という言葉が出てきまして、非常に、各出版社がよくきれいに見せる、それから活字を装飾して工夫されていて、非常に手が込んでいるんですけども、やはりユニバーサル化、ひとくくりに言うと見やすいということだということですね。

それに対しては、そちらを選択していただいたというのは間違いじゃないなというのが、それが一つと、それから、技術の作品をつくる場所があったんですけども、我々の時代は、物をつくるためには図面を書いて、図面には一角法と三角法があって、平面図があって立面図があって側面図があるという、物の構成、基本的なところが、それがもういきなり技術の図面でアイソメトリックで書かれていると、立体図で書かれているということは、物の基本を飛び越して、見てくれを表現している象徴じゃないかなと思ったものですから、大事なところは、物をつくる大事なところは、平面があって立面があつてとい

う、そういう基本の部分があるということを忘れないように、教科書を教えていただくときに使っていただきたいなと思います。

どれを見ても非常にきれいに書いてありまして、それから余白といえますか、周辺部にはもう少し発展したプラスアルファの部分を書いてくれてあって、非常に子供の力量に応じて、先ほどもお話がありましたけれども、それが非常に自由に伸ばせるような、活用の仕方によってはそういったやり方になっていますけれども、やはりそこにあらわれていない基本の部分が落としているところがありますので、例えば、物語の文章も何も記号が書いていない文章をぱっと読んだ時の印象と、教科書に載っているあのいろいろな説明書きが書いてある文章を読んだ場合とでは、どちらが作品としての印象を受けるでしょう。

先ほどの三十三間堂の写真もそうですよね。説明があって、三十三間堂ってこうなって、仏像がこういうふうにならなくてという説明があるものと、ぱっと見開いてみたものとはまた教育効果も違うと思いますので、教科書をよく先生方に見ていただいて、基本の部分を、足りないものがあると思いますので、それをぜひ落とさないようにお願いしたいなと思います。

非常に楽しい、教科書を見て、ああ、これで授業をやられるんだと思うと非常にわくわくしてまいります。非常にいい教科書になっているなと思いました。これは感想です。

はい、ありがとうございます。

それでは、よろしいですかね。

では、今の中学校教科用図書の採択については、このとおりでよろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

はい。では異議なしと認めます。それでは、議案第35号は原案のとおり承認されました。

採択案の合意ということで、承認ありがとうございました。

今後、同意書を志太地区教科用図書採択連絡協議会に、島田市教育委員会として提出をさせていただきます。

先ほどお配りした参考の資料の1ページ目をごらんいただきたいのですが、真ん中より下の右側に、市町教育委員会ということがあります。今、ここの9番の採択決議ということをしていただきました。

今後、まず10番に同意書とありますので、それを地区教科用図書採択連絡協議会に上げるとともに、今度は市町から県のほうに採択結果の報告があります。それをもって初めてきょう提案した教科書の採択ということが決まりますので、それまでは、申しわけないですが今回の今の話し合いについては口外をしないようお願いをしたいと思います。

その関係もございますので、きょうお分けしました資料はこの会終

学校教育課長  
新委員長

学校教育課長

新委員長

了後回収させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたい  
と思います。別にメモは全然構いません。よろしくお願ひします。

わかりました。

ほかに何かございますか。いいですか。

以上で、今回の臨時会に付議された議案の全てが終了しました。

次回の定例会は今年23日、木曜日の午後2時からです。

これもちまして、本日の臨時会を閉会いたします。御苦勞様で  
した。

閉 会 午前11時40分